

第7章 今後の埼玉県学力・学習状況調査

令和6年度に1人1台端末を使用した県学力・学習状況調査を県内全域で実施することを目指しています。

この方法で調査を行うことにより、児童生徒の学びの状況を従来以上に詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童・生徒一人一人の学力向上につなげたいと考えています。



○ 今後の埼玉県学力・学習状況調査

児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の更なる学力向上につなげていくことを目的として、本調査のCBT（※）化を進めていきます。 ※CBT…Computer Based Testing の略で、コンピューターを使用して実施する調査

（１） CBT化の主なメリット

- 正誤の状況に加えて解答時間も分析することで児童生徒のつまづきを把握し、より細かな指導が可能
- CBT の特性を生かした問題として、映像を活用して、より実際の学習場面に即した出題が可能

（分析例）

- ・ 正誤の状況と回答に時間をかけた問題の分野から、つまづいている分野を明確化



個別指導が可能になり、学習支援が必要な児童生徒を早期に発見することにつながる



（２） CBT化に向けた令和4年度の主な取組

① 実施目的と調査対象

ア CBT予備調査

目的：本調査の特長である「学力の伸び」をCBT化後も継続して測定する仕組みの構築

調査対象：4市町（朝霞市・川越市・上里町・杉戸町の小・中学校各1校ずつ計8校）

イ 接続確認調査

目的：令和6年度の本調査のCBT化に向けて、通信環境を確認

調査対象：県内全市町村（さいたま市除く）・全小・中学校等（約1000校）

ウ CBTプレ調査

目的：令和5年度のCBT実施に向けて、市町村単位で検証

調査対象：1市全校（蕨市、小学校7校・中学校3校計10校）



② 主な取組の成果と課題

【成果】

- これまでのCBTの取組結果から、CBTで実施した場合にも、児童生徒の学力の伸びを継続して測ることが可能であると確認ができました。

【課題】

- 実施の状況は、市町村や学校の通信環境の影響を受けることが分かりました。今後は、通信環境の負荷を軽減するために、可能な実施方法を提案していきます。

●埼玉県学力・学習状況調査のC B T化へ向けた取組の概要

様々な課題に対応しながら、段階的に埼玉県学力・学習状況調査（県学調）のC B T化に向けた取組を推進

年度	取組概要	
令和3年度	①試行調査	<p>【目的】 3種のOS（Windows・Chrome・iPad）で、直接型・集約型のどちらの接続方法でも調査実施が可能なことの確認、児童生徒のICT活用能力の確認</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）、県立中学校1校</p>
令和4年度	②予備調査	<p>【目的】 「学力の伸び」を、C B T化後も継続して測定する仕組みの構築</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）</p>
	③接続確認調査	<p>【目的】 県立中学校及び県内（さいたま市除く）の全小・中学校を対象とした、学校の通信環境（一斉接続）の確認</p> <p>【対象】 62市町村全校（約1,000校）及び県立中学校（1校）</p>
	④プレ調査	<p>【目的】 全面実施を見据えた実施手法や結果返却方法の実証</p> <p>【対象】 1市全校（小学校7校・中学校3校）</p>
令和5年度	⑤県学調（本調査）	<p>・県内の市町村（さいたま市除く）がC B Tか紙による調査（従来通り）を選択し実施予定</p> <p>※C B T（36市町村及び県立中学校1校）、紙による調査（26市町村）</p>
令和6年度	⑥県学調（本調査）	<p>・県立学校及び県内全ての市町村においてC B Tで実施を目指す</p>

